

学校だより

プラタナス



令和2年8月28日(金)

No.20 市川市立市川小学校
校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



かかとのつぶれた靴を見て…

子供のころ急いで家の外に出た際に、靴の踵を踏みつぶしていたことを祖母にたしなめられたことが何度かあります。校内で見かける子供たちに目を向けるとどうでしょうか。上履きの踵をつぶして履いている子が多いような気がします。特に、教室で勉強をしているときに見る上履きは、半分脱げかかっています。登下校時にも、サンダル状態の靴を見かけて注意をしたこともあります。

日本の「靴文化」自体が西洋に比べて歴史が浅いと言われます。靴が一般に広がるまでは、草履を履いていました。草履は足に引っ掛けて履くため、しっかりと踵まで入れるものではありません。それ以前は素足で過ごす文化でしたから、屋外で足の裏を守るために草履を履くようになって、家に帰れば素足というのが一般的だったわけです。

日本では、靴を履いたり脱いだりすることが頻繁にあるため、きっと面倒くさがって踵をつぶす人がいるのだと考えられます。また、度々の着脱により踵部分が劣化しやすくなるとも言えます。履き方が悪くて靴が壊れやすくなるのは「もったいない」ことです。こうした日本人特有の精神から、「靴の踵をつぶして履くのはよくない」という認識が広まったといえるかもしれません。

西洋では「靴で人を見る」という場合も多く、踵がつぶれた靴を履いていれば、とてもだらしない人と判断されてしまいます。つまり、きちんと靴を履いていることが人としての品格を高めるといった土足文化の認識なのです。

子供たちには、だらしない見えないようにふるまうこと、物を大切にする気持ちとともに、自分の身を守るという視点でも、靴をきちんと履いてほしいと思います。咄嗟に身をかわさなければ命にかかわるといった場面がないとは限りません。例えば、階段でつまずきそうになったとき。道路で自転車と接触しそうになったとき。危険から身を守るためにも、きちんとしたいものです。そういえば、施設の方から高齢の父母を入所させる際に、「室内履きは、踵がある靴を選んでください」と言われたことを思い出しました。高齢者でも子供でも、安全第一です。

さて、玄関に並んだスニーカーや持ち帰られた上履きの踵を時々見てください。つぶされた跡はないでしょうか？



下に掲げた谷川俊太郎さんの詩「もしも」を、夏休み前の放送朝会で紹介して、柔軟発想の詩を募集したところ、夏休み明けに校長室前ポストへの投函、あるいは直接手渡しされた作品がありました。

もしもあたまが おしりだったら / ぱんつは ぼうしになるだろう
もしもじめんが そらだったら / にじは とんねるのなかにでる
もしも6が 1だったらなら / 6ねんせいは 1ねんせいだ
もしもおかねが このはだったら / ぎんこうは みどりのもりだ
もしもひるまが よるだとしたら / おとなだって おねしょをしちゃう
もしもあなたが ぼくだったらなら / このうた かいたのは あなたです



- もしも人間がサルだったら / 今ごろバナナは無いだろうな(4年 Nさん)
- もしもママがこどもだったら / ごはんがたべられない(1年 Nさん)
- もしも人間がおばけだったら / 満員電車がなくなるだろう(不明 Aさん)

★Aさんの考えた他の作品とTさん(5年生)の素敵な詩を、校長室前掲示板に貼ってあります。ぜひ読んでください。

令和2年度 学校評価(7月保護者アンケート)の数値結果

	アンケート項目	肯定的回答	昨年度12月
1	お子さんは、学校に通うことを楽しいと言っている。	93.1%	*
2	お子さんは、学校の授業がわかりやすいと言っている。	90.7%	93%
3	お子さんは、休校期間中にわからないことを自分から調べるなど、興味を持って学習に取り組んでいた。	60.6%	66%
4	お子さんは、家庭学習を計画的に取り組んでいた。また、その後も継続している。	73.3%	81%
5	お子さんは、休校中も含め、家族や近所の人などに、自分から進んであいさつをしている。	74.2%	76%
6	お子さんは、家庭での自分の役割をもって取り組んでいる。	68.9%	89%
7	お子さんは、休校期間中を含め規則正しい習慣形成(睡眠・食習慣など)を意識して生活している。	77.8%	82%
8	現状において、お子さんの体力や運動量に不安はない。	59.5%	*
9	学校経営方針の内容は、今年度の重点や目標がわかるものであった。	78.8%	83%
10	休校中の学習や生活、また再開後の対応等について、メールや学校ホームページによる情報提供は適切に行われていた。	86.9%	*
11	学校連絡日や分散登校から通常登校に至るまでの対応、およびそれ以降の学校の対応には、一定の安心感がある。	86.5%	*
12	学校は、保護者の思いや願いに対して適切に対応している。	89.2%	84%

※昨年度12月と状況が違っても、アンケート項目の文言を変えて実施しているので、単純に比較できるものではありません。

7月末に実施いたしましたアンケート、回答率82.3%という数値に見られますように、多くのご家庭の協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

ここに見られる問題点は、次の3つです。「自ら進んで学ぶ意欲」、「家庭での役割や学習の在り方・与え方」、「コロナ状況下における体力の維持・向上」といえます。また、肯定回答率が高いからと言って手放しに喜ぶものでもありません。少数ではあっても、マイナス評価の裏にある背景・思いを丁寧に読み解く必要があります。さらに、設問9では「わからない」という回答が多く見られました。学校からの情報を十分伝えきれていないことが原因と解されます。

自由筆記によるご意見も多数頂戴しております。こちらにも回答を添えて次号で紹介する予定です。

今後ともよろしく願いいたします。

佐々木瑛里子教諭(2-1)に、
8月12日 女兒が
誕生しました。

